


分野	51	脱炭素	通番 104
施策	511	持続可能なまちづくり	
5年後の目標		省エネルギー、再生可能エネルギーの普及など、脱炭素社会への取り組みが進み、環境への負荷がさらに低減している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	地球温暖化対策(COOL CHOICE)推進事業		会計	款	項	9,136,086	環境政策室
			一般	4	1		
事業の概要							
<p>市域で排出される温室効果ガスを削減し、地球温暖化対策に資するため、省エネ・再エネ設備に対する助成や啓発の取り組みを行うとともに、公共施設を核とした自治体新電力導入等の他、様々な手法について検討を進め、再生可能エネルギーによる自立・分散型社会の構築を進めます。</p>							


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	COOL CHOICEの実践を対象とする補助金の利用件数				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	572 (令和2年10月末)	目標	587	602	617	632	647
		実績	598	676			
<p>・小学生の親子を対象にミニソーラーパネルを使った「再エネ工作教室」を実施し、発電実験や工作を通して温暖化対策について学んでいただきました。</p> <p>・「COOL CHOICE実践補助金」に家庭用燃料電池システムの設置補助メニューを追加し、省エネでもあるコージェネレーションを活用した自立・分散型のエネルギー社会を推進しました。</p> <p>・補正予算を活用し、太陽光パネルと蓄電池の同時設置補助の受付枠を拡充したほか、次世代自動車の導入補助を事業者向けにも拡充し、燃料高騰の影響を受けにくいライフ・ビジネススタイルへの転換促進を行いました。</p> <p>・市民のパネル設置によるCO₂排出削減効果を価値化し、ごみ収集業者に購入してもらうことで、理屈上CO₂ゼロでのごみ収集を行うこととする事業の協定を、関係事業者との間で締結しました。</p>					再エネ工作教室		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		温室効果ガス排出量		温室効果ガス排出量は、経済活動のほか、電気の排出係数(発電するのにどれだけCO ₂ を排出するか。)に左右されます。そのため、東日本大震災を契機とするエネルギー政策の動向により、排出係数の増減に近い動きとなっています。
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・太陽光発電設備と蓄電設備に対する需要は年々増えていると見られ、補正予算で受付枠を拡充したこともあり、実績は、46件(6,214,000円)となりました。</p> <p>・その他の補助メニューの実績としては、薪ストーブの設置補助0件、住宅窓の断熱改修補助6件(192,000円)、次世代自動車の導入補助(事業者への補助含む)22件(2,200,000円)となりました。</p> <p>・また、令和4年度から新たに補助を開始した家庭用燃料電池システムの設置補助については4件(200,000円)となりました。</p> <p>・上記COOL CHOICE実践補助金とは別に、西山産薪の購入に対する補助制度を設けており、長岡京市森林組合が販売する薪を補助対象としています。令和4年度は、薪材を針葉樹にも拡大することで販売が再開され、補助金利用件数については374件(74,800円)となりました。</p>
	課題等	<p>・「再エネ工作教室」のような小規模イベントは、参加者数が少ないので、より啓発効果を高めるため、参加枠を増やすか、事業の成果を別途情報発信するような工夫が必要です。</p>		

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	<p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <p>・令和4年4月1日に行った「2050年ゼロカーボンシティ」宣言の実現は、行政単体の取り組みだけで達成できるものではありませんので、事業者・団体等との連携した取り組みを進め、より一層の省エネ推進と再エネ普及を進めます。</p>

分野	52	資源循環	通番 105
施策	521	ごみの減量と適正処理	
5年後の目標	市民と行政の一体となった取り組みにより、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルがいつそう進んでいる。		

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	一般廃棄物等の適正処理及び減量化啓発事業		会計	款	項	596,177,208	環境業務課
			一般	4	2		
事業の概要							
長岡京市一般廃棄物処理基本計画に基づき、生ごみ、紙ごみ、プラスチックごみを中心に更なるごみの減量とリサイクル推進、食品ロス削減のための啓発活動を実施します。また、保育所や小学校への出前授業を通して、資源や食べ物を大切にすることを育てます。家庭系一般廃棄物においては、指定ごみ袋制度導入により、ごみを増やさない意識を高め、ごみの減量を進めています。また、事業系一般廃棄物においては、事業系ごみ減量のしおり、減量計画書の提出、展開検査を通じた啓発等により、ごみの減量を進めています。							


令和4年度の取組								
D (取組)	指標①	1人1日当たり収集ごみ量(家庭系)					単位	g/人・日
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	535.4(令和元年度)	目標	524.3	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	
		実績	491.4					
	指標①	【家庭系】1人1日当たり収集ごみ量(資源ごみを除く)					単位	g/人・日
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	456.5(令和元年度)	目標		452.3	448.1	443.9	439.7	
		実績		393.5				
	指標②	1日当たり搬入ごみ量(事業系)					単位	t/日
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
17.7(令和元年度)	目標	13.7	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理基本計画の数値による		
	実績	17.7						
指標②	【事業系】1日当たり搬入ごみ量(市外からの搬入を除く)					単位	t/日	
現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7		
16.7(令和元年度)	目標		16.5	16.3	16.2	16.1		
	実績		16.2					
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所4園、小学校10校、中学校4校で給食調理くずリサイクル事業を実施しました。 ・食品ロス削減の取組の推進のため、市役所玄関ロビーにてフードバンク長岡京によるフードドライブ(食品寄付活動)を12回行い、438kgの寄付を受けました。 ・保育所3園、小学校10校でごみに関する出前授業を行い、ごみ減量や適正排出を啓発するとともに、小学校に食品ロス削減啓発のポスターを配布し、児童を通じて食品ロス削減の啓発を行いました。 ・生ごみ減量のために、スーパー店頭や鉄道駅において紙製水切り袋を配布するごみ減量啓発キャンペーンを実施しました。 ・リユースショップ実行委員会によるリユースショップを1回実施し、528品の再利用につながりました。 ※令和3年度の目標値は平成29年策定の長岡京市一般廃棄物処理基本計画(以下「計画」という。)による。令和4年度以降の目標値は令和4年策定の計画による。								
小学校でのごみ出前授業								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		ごみの総量	ごみの総量は、令和2年度以降は減少傾向が続いています。	193
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の家庭系1人1日当たり収集ごみ量(資源ごみを除く)は393.5g/人・日となり、令和3年度の404.0gと比較して10.5g/人・日減少しました。また、令和4年策定の計画に基づく目標である452.3g/人・日より58.8g/人・日小さい値となりました。 ・令和4年度の事業系1日当たり搬入ごみ量(市外からの搬入を除く)は16.2t/日となり、令和3年度の16.3t/日と比較して0.1t/日減少しました。また、令和4年策定の計画に基づく目標である16.5t/日より0.3t/日小さい値となりました。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭系1人1日当たり収集ごみ量は目標値を達成していますが、増加に転じないよう、アプリ発信や出前ミーティング等も活用し、周知と啓発を続けていくことが必要です。 ・事業系1日当たり搬入ごみ量も、目標値を達成していますが、増加に転じないよう、古紙拠点回収の案内や食品ロス削減などの周知と啓発を続けていくことが必要です。 			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当	対応策等 <ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市一般廃棄物処理基本計画に定めた目標(減量化、再資源化、最終処分量削減)に向けて、3つのコンセプト(減らす、育てる、考える)に基づき、ごみ減量施策を実施していきます。 ・ごみとして排出する前にリユースという選択肢を促進するために、民間企業との連携等も含め、新たな施策の検討を進めます。 ・食品ロス削減のために市民や事業者へフードドライブへの協力をお願いするとともに、フードバンク長岡京の活動を支援します。 ・事業系搬入ごみの更なる減量に向け、事業系ごみ減量のしおりやチラシを活用し、ごみ減量と適正排出の啓発を続けます。

分野	52	資源循環	通番 106
施策	521	ごみの減量と適正処理	
5年後の目標	市民と行政の一体となった取り組みにより、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルがいつそう進んでいる。		

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	分別によるリサイクル推進事業		会計	款	項	9,972,318	環境業務課
			一般	4	1		
事業の概要							
資源の有効活用と減量意識の高揚を図るためには市民参加型のごみ減量施策が重要であるため、自治会や各種団体など地域レベルの活動に対する支援を行います。また、古紙類のリサイクルを推進するために、市民にとって利便性の高い拠点回収の環境整備を図ります。さらに指定ごみ袋制度導入により、ごみを増やさない意識とリサイクル意識を更に高め、再生利用率の向上を目指します。							


令和4年度の取組								
D (取組)	指標	再生利用率					単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	13.4(令和元年度)	目標	21	13.8	14.3	14.9	15.4	
		実績	14.8	15.2				
<ul style="list-style-type: none"> 市民のみならず事業者に対して古紙回収案内チラシを新たに作成し、配布しました。また古紙等を排出しやすい環境を整備するため、古紙回収を行う団体に対して助成金交付等で団体を支援し、1,679tの古紙等の回収につながりました。さらに市役所(平日及び第3日曜日)並びに中央公民館(開館日)での古紙回収ステーションを継続して開設し、142tの古紙等を回収できました。 サントリーグ룹と長岡京市・向日市・大山崎町・乙訓環境衛生組合で使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」リサイクル事業を令和4年4月から開始しました。またこの事業についてごみ減量のしおりに記事を掲載し、市民への周知と適正排出の啓発を行いました。 適正な資源物の排出を促進するため、分別ステーションでの指導等を行いました。 						中央公民館の古紙回収ステーション		
※令和3年度の目標値は、平成29年策定の長岡京市一般廃棄物処理基本計画(以下「計画」という。)による。令和4年度以降の目標値は令和4年策定の計画による。								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		リサイクル率	令和元年度までリサイクル率(府基準)の低下傾向が続いていましたが、令和2年度には下げ止まりました。	193
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の再生利用率は15.2%となり、令和3年度と比べて0.4ポイント上昇しました。また、令和4年策定の計画に基づく目標値(13.8%)と比較すると1.4ポイント上回る値です。 令和4年度の古紙等の回収量は、令和3年と比べて3%(55t)増加しましたが、令和4年度の家庭からの資源物回収量は令和3年度に比べて9%(171t)減少しています。しかし、ごみ総量も3%(702t)減量していることから、ごみの総量に対する再資源化したものの割合である再生利用率は向上することになりました。 	
課題等		<ul style="list-style-type: none"> 資源物を適切に排出しやすい環境を今後も維持する必要があります。 再生利用率向上には、ごみ減量と再資源化の促進が重要であるため、これらを継続的に啓発する必要があります。 事業系ごみに含まれる古紙について、資源物として回収できるよう、古紙の拠点回収場所について引き続き事業者へ周知を行う必要があります。 		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 長岡京市一般廃棄物処理基本計画に定めた目標(減量化、再資源化、最終処分量削減)に向けて、3つのコンセプト(減らす、育てる、考える)に基づき、ごみ減量施策を実施していきます。 市民及び事業者に向けて古紙の拠点回収場所等を引き続き周知し、利用促進を行います。

分野	53	環境共生	通番 107
施策	531	西山の整備	
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	西山における森林保全活動の推進・啓発事業		会計	款	項	1,500,000	農林振興課
			一般	6	2		
事業の概要							
西山森林整備構想に基づき、具体的な森林整備方針を定め、産官学民連携の組織である西山森林整備推進協議会と連携して、多様な主体による森林保全活動の推進と啓発を促進します。							


令和4年度の取組								
D (取組)	指標	森林ボランティア団体数					単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	23(令和元年度)	目標	23	23	23	23	23	23
		実績	22	23				
<p>・「西山森林整備構想」に基づき、西山森林整備推進協議会と連携して、京都モデルフォレスト運動による森づくりへの支援や自然環境調査、長岡第三中学校による放置竹林対策としての竹灯籠作成支援などの環境教育事業、関係団体や関係機関が実施する西山での活動への支援を行いました。</p> <p>・子どもたちの環境教育の推進・充実を目的とした「西山ファミリー環境探検隊」を実施しました。また、ボランティア行事として西山の放置竹林の伐採体験を実施するとともに、ボランティア団体の安全対策を目的としたボランティア養成講座を実施しました。</p>						<p>ボランティア養成講座(安全講習)</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・その他イベント出展等の啓発事業を継続的に実施することで、森林整備活動に関心を持つ人と既存の団体との関係性の構築することができました。 ・新規ボランティア活動を希望されている企業と協議し、活動地地権者に説明し了解を得てボランティア活動を開始することができました。 ・ボランティア行事、ボランティア養成講座を開催し、安全意識を高めるとともにボランティア団体間の交流を図ることができました。 	
	課題等			<ul style="list-style-type: none"> ・既存ボランティア団体の継続的な活動を促すための声掛けや活動支援が必要です。 ・会員の高齢化と後継者不足に悩んでいるボランティア団体が多いため、活動内容のPRやボランティア養成講座を実施し新規ボランティア会員を確保する必要があります。 	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・新規ボランティア活動を希望されている企業と地元地権者との橋渡しを行い、円滑にボランティア活動を実施できるよう調整を行います。 ・既存ボランティア団体が学校等の遠足や課外活動などを受け入れる時などには、備品の貸出しや職員の派遣を行うなど、活動しやすい環境を整備します。

分野	53	環境共生	通番 108
施策	531	西山の整備	
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	西山における森林整備推進事業		会計	款	項	17,185,240	農林振興課
			一般	6	2		
事業の概要							
西山の森林機能を維持・回復させるため、人工林の間伐や二次林の改良、拡大竹林の整備、危険木の処理を進めるとともに、京都西山再生プロジェクトにおいて生物多様性に富んだ森づくりに取り組みます。							


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	西山森林整備面積(累計)				単位	ha
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	306.73 (令和元年度)	目標	320	328	336	344	352
		実績	320	329			
<p>・長岡京市森林組合に業務委託を行い、森林整備を合計9.57ha実施しました。</p> <p>・人工林については、3.24haの間伐を実施し、二次林については、1.53haの改良を行いました。竹林については、拡大する竹をライン状に伐採し最前線を押し戻す線の整備と点在する竹の除伐を1.36ha行うとともに、過去の線の整備地で新たに発生したタケノコ等を伐採する維持管理を実施しました。また、台風等に起因する風倒木の単木伐倒処理と面的処理を2.84ha実施しました。植生回復のため、0.6ha下刈りを実施しました。</p> <p>・ふるさと納税を活用し、カブトムシやオオムラサキなど多様な生き物が暮らす森を再生する「京都西山再生プロジェクト」では、既存植樹地の下刈りや苗木29本の新規植樹、獣害防止ネットの補修等を行いました。</p>					<p>放置竹林除伐実施地</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		西山の森林整備面積・整備率	これまで継続的に進めてきた森林整備活動により、西山の有する多面的な機能が徐々に回復しつつある。	194
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	平成27年4月に改定された「西山森林整備構想」と併せて作成されたゾーニング資料を基本的な指針として、集中豪雨等による風倒木の伐倒処理など災害復旧を踏まえた森林整備を進め目標達成できました。	
	課題等	<p>・森林整備を進めていくとともに、搬出した木材を公共施設等に積極的に活用し西山をPRしていく必要があります。</p> <p>・効果的に放置竹林対策を実施できるよう、専門業者と協議し現地調査を実施したうえで整備方法等を検討する必要があります。</p>		

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当
	<p>・森林整備により災害に強い森づくりを進めるとともに、台風等の災害が発生した場合は速やかに災害復旧を実施します。</p> <p>・計画的に利用間伐を実施するため、スギ・ヒノキの材積や搬出方法について調査を実施します。</p> <p>・木材利用を推進し資源の循環利用を図るため、関係機関と協議を行い公共施設等における木材利用を推進します。</p>

分野	53	環境共生	通番 109
施策	532	地域環境力の向上	
5年後の目標		“環境の都”長岡京の実現に向け行動する人の輪が広がっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	環境都市宣言啓発推進事業		会計	款	項	683,918	環境政策室
			一般	4	1		
事業の概要							
社会を構成するあらゆる主体が、その役割と責任を認識し、それぞれの立場に応じた環境にやさしいライフスタイル・ビジネススタイルの行動の輪が広がるよう環境に関する様々な学習会等を通じた啓発活動を実施し、地域環境力の向上を図り、“環境の都”長岡京の実現のため取り組みを進めます。							


令和4年度の実績							
D (取組)	指標	環境イベント・行事への参加主体数				単位	者
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	26(令和2年度)	目標	38	39	39	40	40
		実績	33	39			
<p>・環境フェアと農業祭の合同開催を実現し、環境と親和性の高い「農」と併せてPRすることで、地産地消による温暖化対策や地元農業振興など、分野横断的な施策展開を行いました。</p> <p>・市制施行50周年事業として、2050ゼロカーボンシティ宣言記念シンポジウムを行いました。「『宣言』から『行動』へ」をテーマに、講演とパネルディスカッションを行い、脱炭素社会に向けた契機としました。</p> <p>・市制施行50周年事業として、西代里山公園管理棟(西山ホテルの家)において、ゲンジボタルを育てる会及び西山森林整備推進協議会の常設展示コーナーを新設し、環境保全啓発の発信場所としてのしつらえを整えました。</p>					<p>環境フェアの一場面</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・環境フェアを農業祭と合同開催にしたことで、より多くの団体と関わることができ、環境活動・啓発を行うチャンネルを増やすことができました。	—
	課題等	・環境問題を「自分ごと」として捉えてもらうためには、市が単独で環境学習会等を主催するだけでは不十分だと考えます。地域の人々が地域で主体的に環境に優しい行動を呼び掛けるような、取り組みの輪を広げることが重要です。			—

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当
	<p>対応策等</p> <p>・市が単独で環境学習会等を行い啓発するだけでなく、できるだけ啓発主体を増やし、「行政から市民への啓発」だけでなく、「市民から市民への啓発」を増やし、環境問題の「自分ごと化」を図ることが大切です。</p>

分野	54	都市環境	通番 110
施策	541	良好な景観の保全	
5年後の目標		西山から市街地への緑の流れが活かされ、市民や事業者とともにつくっているまちのたたずまいに、市民や訪れる人がやすらいでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	無電柱化推進事業		会計	款	項	—	まちづくり 政策室
			—	—	—		
事業の概要							
阪急長岡天神駅周辺や景観重点地区である八条ヶ池、景観沿道軸となる天神通りとアゼリア通り、府施行西京高槻線の無電柱化を府と共に推進します。							


令和4年度の取組								
D (取組)	指標	無電柱化事業の進捗					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	—	目標	市役所前区間の 検討	市役所前区間の 工事着手	市役所前区間の 工事推進・完成	八条ヶ池区間の 検討	八条ヶ池区間の 検討	
		実績	市役所前区間の 検討	市役所前区間の 工事实施				
・京都府及び電線事業者と連携しながら無電柱化工事を実施しました。					無電柱化事業後イメージ			
								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
達成度合	A：目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・アゼリア通りの市役所前区間について、無電柱化工事を実施しました。	
課題等	・道路管理者や電線事業者などの関係機関が多岐にわたることから、工程管理の厳格さが求められます。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1：計画通りに進めることが適当	・道路管理者に引き継ぐための台帳整理業務を発注します。

分野	54	都市環境	通番 111
施策	541	良好な景観の保全	
5年後の目標		西山から市街地への緑の流れが活かされ、市民や事業者とともにつくっているまちのたたずまいに、市民や訪れる人がやすらいでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	西国街道再整備事業		会計	款	項	14,306,600	道路・河川課
			一般	8	2		
事業の概要							
平成12年度より整備された西国街道北部地域は、経年劣化による石畳の破損により、市民の日常生活に支障をきたしています。また、維持管理費については、年々増大しています。よって、「長岡京市景観計画」に基づく旧街道軸で、景観に配慮した石畳の再整備を行います。							


令和4年度の取組								
D (取組)	指標	北部西国街道延長(L=1050m)の整備率				単位	%	
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	—	目標	道路設計業務		10.5	41.0	70.5	100.0
		実績	道路設計業務		28.6			
・北部西国街道（市道第4021号線）について、その1工事として300mの再整備を実施しました。								
西国街道再整備								

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・決定した再整備方法に基づき、近隣住民や地元自治会、通行者に配慮した上で、工事を実施しました。	—
	課題等	・夜間施工及び交通規制等によるリスク低減が課題となります。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	・令和4年度より4ヶ年での整備計画となっていますが、歩行者の利便性や安全性を考慮し、早期に完了できるよう工事を進めていきます。

分野	54	都市環境	通番 112
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	西山公園整備事業		会計	款	項	目	221,094,663	公園緑地課
			一般	8	4	4		
事業の概要								
子どもの多様な遊び場、子育て世代を支える場と健康増進の場づくりを基本方針とした西山公園第3期整備計画に基づき、新池周辺や長法寺配水池跡地を活用した整備を行います。								


令和4年度の取組								
D (取組)	指標	西山公園第3期整備計画の進捗					単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	基本設計 (令和2年度)	目標	測量・実施設計	用地買収	配水池解体工事	整備工事	整備工事完了	
		実績	測量・実施設計(新池護岸部分完了)	用地買収・新池護岸整備工事・実施設計				
<ul style="list-style-type: none"> 配水池跡地及び進入路の用地取得を行いました。 新池の護岸整備工事を行いました。 配水池跡地の広場実施設計等業務を完了しました。 							配水池跡地広場整備完成イメージ	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 配水池跡地及び進入路の用地取得を完了しました。 新池護岸整備工事を完了しました。 配水池跡地の広場整備に係る実施設計業務は、インクルーシブ公園(誰もが一緒に楽しめる公園)として整備するためのワークショップを開催し、併せて本市のインクルーシブ公園の整備指針を策定しました。 	—
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 地元との合意形成を図りつつ、整備を進めていく必要があります。 			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画公園事業の事業計画変更(便益施設である内池駐車場エリアの追加)を行います。 配水池工作物の解体工事を行います。 内池駐車場等の実施設計を行います。

分野	54	都市環境	通番 113
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	市民協働緑化事業		会計	款	項	15,097,000	公園緑地課
			一般	8	4		
事業の概要							
公益財団法人長岡京市緑の協会と共に、みどりのサポーター制度の促進を図り、市民による公園等の緑化及び環境美化活動を進めます。							


令和4年度の取組								
D (取組)	指標	みどりのサポーター活動団体数					単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	100(令和元年度)	目標	106	109	112	115	118	
		実績	110	109				
<ul style="list-style-type: none"> 令和4年12月にバンビオ1番館及びバンビオ広場公園にて「第17回みどりで笑顔のつどい 市制50周年記念～継承と発展 緑とつながりバトン～」を開催し、85名の参加者のもと市制50周年記念プランターへの植付けや活動報告を行いました。 前年度に引き続き、立命館高校の総合学習で地域課題として「みどりのサポーター制度による公園等の緑化及び環境美化活動の推進について」を提示し、高校生とともにみどりのサポーター登録者数を増やす方法について考えました。 (公財)長岡京市緑の協会は、緑の講習会を年4回、出前講座を年5回開催し、合計127名の参加がありました。 						みどりで笑顔のつどい		
								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
			—	—
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	・みどりのサポーターは、令和4年度末時点で109団体、1,369名の登録があり、目標は達成しました。	
	課題等		・10年以上活動しておられるみどりのサポーターは令和4年度末時点で49団体あり、継続して活動をしていただいている一方で、高齢化を理由に退会される団体が年間数団体あります。そのため、新たな担い手を増やしていけるように、さらなる広報活動が必要です。	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> みどりのサポーター登録者に日々の活動に対するモチベーションを維持していただくため、サポーター間の交流を深める「みどりで笑顔のつどい」の運営支援を行います。 引き続き、はっぴいバスへの広告掲載や緑の講習会でみどりのサポーター制度をPRします。

分野	54	都市環境	通番 114
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	公園施設長寿命化事業		会計	款	項	目	58,922,600	公園緑地課
			一般	8	4	4		
事業の概要								
公園施設を快適かつ安全に使っていただくため、公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化した施設の更新や修繕を行います。								


令和4年度の取組								
D (取組)	指標	公園の施設整備数					単位	公園
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	17(令和2年度)	目標	25	28	37	43	58	
		実績	25	32				
・公園施設長寿命化対策工事を実施しました。						八条が丘北公園 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・西の京・八条が丘北・あかね・更ノ町東・南浦・久貝二丁目・調子の7公園を整備しました。 ・老朽化した遊具26基とベンチ等の施設12基を更新しました。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・「長岡京市公園施設長寿命化計画」は平成30年度に策定しており、時間経過とともに予想外の遊具補修や更新など計画内容と実態に乖離が生じてきています。 ・長寿命化計画の対象とする公園を新たに追加する必要があります。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当 対応策等 <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心で快適に利用していただくため、老朽化した公園施設の更新・修繕等を計画的に進めます。 ・公園施設長寿命化計画(第二期)を策定します。

分野	54	都市環境	通番 115
施策	543	生活環境の保全	
5年後の目標		大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	環境監視事業		会計	款	項	3,554,279	環境政策室
			一般	4	1		
事業の概要							
大気・水質、騒音などの状況について調査・把握・評価を行い、生活環境保全のための監視・指導を行います。							


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	小畑川、小泉川の透視度:30cm以上、BOD:2mg/L以下、PH:6.5~8.5の維持状況				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	小畑川(井ノ内橋)透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/L以下 PH:7.9	目標	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持
小泉川(西代橋)透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/L以下 PH:7.9 【R2年2月時点数値】	実績	小畑川(井ノ内橋)透視度:30cm以上 BOD:1.1mg/L PH:7.5 小泉川(西代橋)透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/L PH:7.8	小畑川(井ノ内橋)透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/L PH:7.7 小泉川(西代橋)透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/L以下 PH:8.0				
<ul style="list-style-type: none"> ・大気、水質、騒音の検査を実施し環境基準と比較しました。 ・地下水及び河川の調査を15か所で実施しました。 ・大気調査は67か所で実施しました。 ・環境騒音及び自動車騒音の調査を31か所で実施しました。 ・それぞれの調査で得られた結果を国や京都府などに報告し、また関係部署とも情報共有に努めました。 					小泉川の様子 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員	
			小畑川・小泉川的主要河川水質指標	PH値(水素イオン濃度)6.5~8.5、BOD(生物化学的酸素要求量)2mg/L以下であり、水質指標を達成していました。	195
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・河川調査では、6河川8地点で年4回調査を行ったところ延べ241項目が基準値内でした。 ・地下水の水質調査では、農業用井戸のうち1か所で環境基準の超過が認められました。超過した項目は、地質といった自然由来の影響で超過することがあります。農業用の水質基準は達成していました。 ・大気調査は、環境基準の超過はありませんでした。 ・騒音調査では、4か所で一時的に環境基準を超過していましたが、自動車騒音については道路交通法に基づく措置が必要となる要請限度は超過していませんでした。 		
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・大気、水質、騒音など環境保全の分野は範囲が広いため、広い視野と専門的な知見、技術を継承しながら取り組む必要があります。 ・環境基準を超過した項目がある地点について、生活環境への影響を考慮し経過観察が必要です。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全意識向上のためにも関係する機関と協力しながら、市民、事業者等への啓発が必要です。そのため、今後も継続して生活環境保全のための監視を行い、状況に応じて啓発や指導を行います。 ・専門的分野に対応するため、京都府等の研修により知見を深めるとともに、委託も活用しながら環境監視を行います。 ・大気、水質、騒音、振動等について環境基準をもとに適切に評価を行います。 ・環境基準を超過した項目、地点については京都府や関係部署にも報告を行い、情報共有をしながら監視を継続します。

分野	55	水資源	通番 116
施策	551	水資源の保全	
5年後の目標		企業・市民の理解と協力のもと、地下水の適切な利用により、良質な水資源が保全・継承されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	水道の安定供給に係る 水資源保全事業		会計 款 項 目	—	水道施設課
			公営企業会計		
事業の概要					
地下水を将来にわたり、水道水源として利用するために、地下水を採取する井戸(取水井戸)の保全及び地下水の水質管理を適切に行います。					


令和4年度の取組							
D (取組)	指標①	取水井戸の稼働本数				単位	本
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	6(令和元年度)	目標	6	6	6	6	6
		実績	6	6			
	指標②	水道水源の水質検査(地下水中の揮発性有機化合物検査及び病原菌検査)回数				単位	回/年
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	12(令和元年度)	目標	12	12	12	12	12
		実績	12	12			
	<ul style="list-style-type: none"> 全取水井戸について職員による巡視点検を毎日(平日)行いました。 全取水井戸について水位測定を毎月行いました。 取水ポンプの修繕(1台)を行いました。 取水ポンプ盤の取替(1面)を行いました。 全取水井戸について水質検査(地下水中の揮発性有機化合物検査及び病原菌検査)を毎月行いました。 					取水井戸 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
	達成度合	市内井戸における 地下水位回復状況 一般向け府営水ブレンド率	地下水採取の適正化及び取水井戸の保全が市内井戸における地下水位の回復に寄与しています。府営水ブレンド率が50%程度で推移し、二元水源による水道水の安定供給を維持できています。	197
		達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 取水井戸の稼働本数(6本)を維持することができました。 取水井戸の巡視点検を毎日(平日)行うことで、設備トラブルの防止及びトラブル発生時の早期発見、即時対応により、設備保全を適切に行うことができました。 取水井戸の水位測定を毎月行うことで、地下水の適正利用が可能となりました。 水質検査を毎月(12回/年)行うことで、水道水源として利用するための安全性を確認することができました。(検査結果は、本市ホームページに掲載しています) 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 水道水の安定供給に必要な揚水量の確保 取水施設の老朽化 水道水源として利用するための地下水水質管理 			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1:計画通りに進めることが適当 対応策等 <ul style="list-style-type: none"> 取水設備の安定稼働を維持するために、巡視点検を行います。 取水井戸の適正利用を維持するため、取水井戸の水位測定を毎月行います。 水道水の安定供給に必要な揚水量を確保するために、取水設備の適宜更新及び浚渫(井戸内の清掃)を行います。 水道水源としての安全性を確認するために、定期的に水質検査を行います。

分野	55	水資源	通番 117
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	低廉な水の安定供給事業		会計 款 項 目	—	上下水道 総務課
			公営企業会計		
事業の概要					
地下水と府営水道の二元水源により安全で安心な水道水を安定供給することと併せて、京都府と受水市町が連携し、効率的な水運用により低廉な水道料金での事業運営に努めます。					


令和4年度の取組							
D (取組)	指標①	水道水における府営水ブレンド率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	50.8(令和元年度)	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		実績	4月～9月 50.0 10月～3月 100.0	4月～5月 100.0 6月～3月 51.4			
	指標②	有収率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	95.85 (令和元年度)	目標	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上
		実績	96.5	96.3			
	<p>・二元水源による水道水の安定供給を今後も行っていくため、東第2浄水場耐震補強他工事を令和3年度から4年度までの継続事業として実施しました。</p> <p>・工事に伴い、東第2浄水場の浄水機能を停止するため、府営水ブレンド率は、浄水機能が停止していた4月から5月、浄水機能再開後の6月から3月に分けて記載しています。浄水機能が停止していた期間においては府営水のみで、6月の浄水機能再開以降は、ブレンド率51.4%で水道水を供給しました。</p> <p>・奥ノ院給水区域において、漏水調査を行い、有収率の向上に努めました。</p>					<p>耐震化後の浄水池</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・令和3、4年度における府営水ブレンド率の目標値は、東第2浄水場の工事期間が未確定であったため、工事により浄水機能が停止している期間を除いた期間における目標値を記載しています。</p> <p>・浄水機能が再開した6月から3月において、目標値とする50%に近づける事ができました。</p> <p>・有収率は、昨年度96.5%から0.2%減少しましたが、これは東第2浄水場が稼働した際に洗管などで使用した水量が影響しています。令和4年度の有収率としては目標値を超える有収率を維持することができました。</p>
課題等	<p>・将来にわたり、地下水と府営水道の二元水源による水道水を供給するためには、地下水の適正な揚水量を守る必要があります。</p>			

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <p>・今後の水需要の推移を見ながら、引き続き、地下水の適正揚水量を守り、併せて府営水とのブレンド率50%を維持します。</p>

分野	55	水資源	通番 118
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	水道施設の耐震化事業		会計 款 項 目	—	水道施設課
			公営企業会計		
事業の概要					
自然災害や経年劣化による水道施設の損壊は市民生活への影響も大きく、復旧にも時間を要します。自然災害等に負けない強靱な水道施設とするため、計画的に耐震化を進めます。					


令和4年度の取組							
D (取組)	指標①	上水道基幹管路耐震化率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	34.1(令和元年度)	目標	37.3	37.3	37.5	38.5	39.3
		実績	36.0	36.5			
	指標②	浄水施設(東第2浄水場)の耐震化率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	—	目標	0	100			
		実績	0	100			
	<p>・令和2年度より長岡京市上下水道ビジョン(令和2年度～令和11年度)に基づき、耐用年数を経過した基幹管路の耐震化工事を神足芝本、神足2丁目、城の里地内において実施しました。</p> <p>・令和3年度に着手した東第2浄水場耐震補強他工事が令和4年度に竣工し、浄水施設(東第2浄水場)の耐震化率が100%となりました。</p>					耐震管への布設替状況	
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
		令和4年度の達成状況			
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	評価指標	水道基幹管路の耐震化率		平成9年度より基幹管路の耐震化に着手し、令和2年度からは長岡京市上下水道ビジョンに基づく水道施設整備計画にて耐震化を進めており、耐震化率は例年通り上昇傾向となっております。	196
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・長岡京市上下水道ビジョンに基づき、耐用年数並びに重要度等を考慮して工事を実施した結果、目標数値を満たすことができなかったものの、一定の耐震化を進めることができました。	
課題等	・基幹管路の耐震化については、長岡京市上下水道ビジョンに基づき、計画的に更新を行うため、耐用年数、重要度や生活の影響度が高い箇所を優先的に選定を行うと共に周辺住民に対して周知及び理解を図ることが必要となります。				

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <p>・健全な財政を維持しながら水の安定供給を図るため、長岡京市上下水道ビジョンに基づき、管路の耐用年数、重要度、生活の影響度が高い箇所を優先的に選定、また円滑に工事を実施するために各占有者との協議並びに周辺住民への周知及び理解を図った上で、効率的に基幹管路の耐震化を進めます。</p>

分野	55	水資源	通番 119
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	鉛製給水管の取替促進事業	会計	款	—	水道施設課
		項	目		
公営企業会計					
事業の概要					
蛇口からの水質保全や漏水防止のため、既存の鉛製給水管の取り替えを順次進めます。					

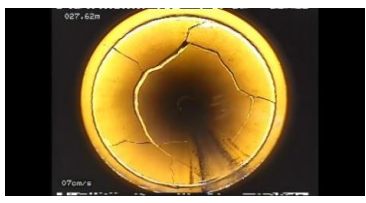
令和4年度の取組							
D (取組)	指標	鉛製給水管残存率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	8.3	7.5	6.8	6.0	4.8
	9.0(令和元年度)	実績	6.0	5.4			
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度から長岡京市上下水道ビジョン(令和2年度～令和11年度)に基づき、市内一円における給水管取替工事、管路更新工事に伴う取替及び修繕等を実施し、鉛製給水管の取替を進めました。 工事を実施する上で、施工箇所が対象者の敷地内も含む場合が多く、事前に対象者との協議を行い、円滑に進められるように調整しました。 				鉛製給水管の取替状況			
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 鉛製給水管の取替について、給水管取替工事、管路更新工事に伴う取替及び修繕等に合わせて実施しています。取替がされていない集合住宅地や点在しているものの隣接している箇所を選定する等効率良く進め、目標を達成しています。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 事業進捗に伴い、まとまった地区での更新がほぼ完了し、近年では取替箇所が点在していることから、選定が難しくなっています。確実に取替を進めていくためには、効率良く実施できる箇所の選定及び対象者へ説明し、理解と協力が必要となります。 		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 取替対象が市内一円に点在しているため、管路更新等と調整を図りながら、実施箇所の選定を行います。 取替実施をするに当たり、事前に対象者及び周辺住民に周知説明をした上で理解と協力を得て取替を進めます。

分野	55	水資源	通番 120
施策	553	下水の適正処理	
5年後の目標		下水道施設・設備の更新が着実に進み、下水の適正な処理によって、公共用水域の水質が保全されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	下水道長寿命化事業	会計	款	—	下水道施設課
		項目	公営企業会計		
事業の概要					
計画的かつ効率的に管路の管理を行うため、ストックマネジメント計画及び上下水道ビジョンと整合をとりながら全管路の状態を計画的に点検します。点検結果により不具合が見つかった箇所の調査を実施し、その調査結果を基に改築・更新・修繕を計画的に進めます。					

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	管きよの点検率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	5.97(令和元年度)	目標	ストックマネジメント計画の変更	13.35	17.07	20.79	24.51
実績		ストックマネジメント計画の変更	13.45				
・ 布設年度の古い陶管を優先対象として約8.81kmの点検を実施し、管きよの全延長に対する点検率は13.45%となりました。					管内状況(破損A)		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・ 年間点検延長8.5kmに対し8.81kmの点検を実施し、計画通り管路における異常の有無を確認することができました。
課題等	・ スtockマネジメント事業全般において、国費等の財源を確保する必要があります。 ・ 異常が確認された箇所については詳細調査を実施し、対策が必要とされた箇所には改築・修繕を行っていく必要があります。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・ スtockマネジメント計画に基づき、布設年度の古い陶管を優先対象とし、年間約8.5kmの点検を実施します。